学修ポートフォリオに対する理解の促進に向けて
（中間まとめ）

大学情報システム研究委員会

１．学修ポートフォリオをめぐる状況

（１）背景

中央教育審議会の「学士課程答申」では、卒業認定における評価の厳格化を大きな課題としている。評価の厳格化は卒業時点に限定することなく、入学してからの教育過程の成績評価について学生の成長という観点から考えることが重要であるとし、教員間の共通理解の下で組織的に学修の評価に当たっていくことが強く求められている。評価に当たっては、多様な学修活動の成果を評価する観点から、学生の学修履歴などの記録と自己管理のための仕組みを整備することが不可欠であるとしている。その上で、学修成果の効果的な達成を促す仕組みとして、学生自身が学修の達成状況を点検し、振り返りを通じて自律的に学修する習慣を身につける学修ポートフォリオの導入と、大学がこの情報を踏まえてきめ細かな履修指導や学修支援の実施に活用することを提言している。また、平成24年8月の中央教育審議会答申（「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて」）においても、速やかに取り組むことが求められる課題として、学修ポートフォリオなどの導入が指摘されている。このような、教育の質的転換に向けた改革努力について、国は平成29年度までの「大学改革実行プラン」の中で、改革方策の実現に向けた取り組みを大学に求めている。

（２）学修ポートフォリオ導入の現状

学修ポートフォリオを導入している大学の多くは、その目的や意義について、十分に学生・教職員の理解が得られていないこともあり、期待した以上には教育改善の成果がみられていない。

以下に、大学組織・教職員・学生における主な問題点を列挙する。

【学生の問題点】

- ポートフォリオの意義・目的及びメリットが理解されていない。
- 効果的な学修方法を身につけようとしない。
- 学修状況の書き込みを継続しない。

【教職員の問題点】

- 学生にポートフォリオのメリットを理解させられない。
- 教育プログラムの評価に反映する方法がわからない。
- 学生の評価にポートフォリオをどのように活用すべきかわからない。
- 学生の記録や自己評価にフィードバックをしない、コメントの仕方がわからない。

【大学組織での問題点】

- 導入目的や意義が組織として十分に認識・共有されていない。
- 組織的に活用する体制が確立されていない。
- 活用を促進するための仕組みがない。
- 継続的に運営するための財政的基盤・設備・人的資源がない。

以上、問題点を整理すると、大学全体としてポートフォリオの意義・目的及びメリットが理解されていない、学修成果の書き込みが継続されず期待した以上には効果的な学修方法が身についていない、ポートフォリオに記載した学修内容の真実性を教員が判断することが困難、教育改善を図るための基礎資料としてポートフォリオをどのように活用すべきか理解されていないなどの問題がある。そして、財政的支援、設備の整備、人的資源の配置等の不足は多くの大学に共通している。

２．学修ポートフォリオに関する基本的な考え方

［学修者中心の学修ポートフォリオ］

学修ポートフォリオは、学生自身が学びのプロセスや成果を示す資料・コンテンツ等を継続的に蓄積したものである。学生は、継続的かつ定期的に学びを振り返ることを通じて学修の到達度を確認し、取り組むべき課題を発見することができる。また、教員から個別指導を受けることで適切な学修支援を獲得して学びを深化させ、さまざまな知識と技能を自主的に修得することができる。このような学修の体験を繰り返すことで、生涯に亘り身につけるべきキャリア「能力」を形成することができる。

［教員・大学からみた学修ポートフォリオ］

学修ポートフォリオを活用することで、学びと教育のプロセスを「見える化」し、そのプロセスを学生と共有することができ、学生の学修行動を把握できる。教員は、学修行動の記録を活用して授業の点検・評価を行うことで、課題を発見するツールとして活用できる。また、大学では教育プログラムの効果を明確化し、教学マネジメントを点検する IR（大学機関調査）ツールとして多面的に活用できる。

以上のことから、学修ポートフォリオを継続的に活用することを通じて、学生の学修と大学の教育をマッチングすることにより、学士課程教育で求める方向性を確認する「羅針盤」としての役割が期待されている。

３．提言

学修ポートフォリオの導入に当たり留意すべき点としては、学生一人ひとりの学修内容及び学修達成状況を常時把握し、特に達成が思わしくない学生には大学として卒業するまで適切な学修支援が得られるよう、何らかの個別指導を行う仕組みを整備しておくことで学生が安心して学びに向き合えるようにすることが、最も重要なことである。

そのためには、各大学でポートフォリオ導入の目的及び意義を明確化するとともに、学生・教職員への共通理解の徹底が不可欠で、当面、以下に掲げるような課題及び対応の検討が必要となろう。

① 学修ポートフォリオの運用に当たっては、教育課程や各科目において学修ポートフォリオの位置づけや活用方法を明確にするとともに、学生に利用のメリットを明確に提示する必要がある。

② 学生に継続的に利用させる仕掛けとして、各科目のシラバスに学修ポートフォリオの活用方法を明記し、評価項目の一つに学修ポートフォリオの活用状況を加えるなどの方策が考えられる。

③ 学生に積極的に利用させるためには、学修記録の内容や振り返りに対する教員のコメントなどのフィードバックが不可欠である。コメントの具体的な方法やノウハウについては、ＦＤの課題としてとりあげる必要がある。

④ 学修ポートフォリオの導入及び利活用には、学長のリーダーシップのもと全学的かつ組織的に取り組むことが求められる。また、大学組織として学生を支援するためには一人ひとりの学生の学修に寄り添う覚悟が求められていることから、教員の意識変革を促す努力が必要とされる。

⑤ 学修ポートフォリオの実現・維持には、人的資源の配置、施設設備、財政的支援等の適正化に関して理事会を中心とした組織での共通認識と意思決定が必要である。